

オガサワラカワラヒワ生息域外飼育 2025年度中間報告(春繁殖の結果)

- 2025年春繁殖の結果
初めて飼育下繁殖に成功(5羽巣立ち)
- 落鳥の発生(#1 ♀)
- 足環に関する不調個体の発生(#7 ♀、#12 ♂)

2025年 春繁殖の結果概要

飼育施設	父島施設		上野動物園	iBO(参考※)
飼育ペア	#14♂×#15♀	#11♂×#7♀	#12♂×#16♀	#13♂×#9♀
1クラッチ目	<ul style="list-style-type: none"> ・3卵を産卵 ・全て孵化・巣立ち ・3羽は順調に自然育雛中 	<ul style="list-style-type: none"> ・交尾の有無は未確認 ・産卵に至らず ・換羽開始したため春繁殖終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・交尾は未確認 ・3卵を産卵 ・全て無精卵 	別途報告
2クラッチ目			<ul style="list-style-type: none"> ・交尾は未確認 ・4卵を産卵 ・全て無精卵 	
3クラッチ目			<ul style="list-style-type: none"> ・交尾は未確認 ・4卵を産卵 ・うち2羽が孵化・巣立ち ・2羽は順調に自然育雛中 	

※2025年3月27日に環境省により開催されたオガサワラカワラヒワの飼育技術開発に関するweb会合の結論により、東京都から飼育個体を譲渡
 詳細はNPO法人小笠原自然文化研究所(iBO)より別途報告

2025年 父島施設 春繁殖の飼育概況

春繁殖の実施状況 屋内施設 計2箇所(飼育室・モニター室)

屋内施設

- ・飼育室
→繁殖用連結ケージ
- ・モニター室
→金かご連結ケージ



繁殖用連結ケージ



金かご連結ケージ

屋外施設

秋繁殖以降の使用に備え、老朽化、ネズミ、シロアリ対策として2基中1基を改修中

【主な改修点】

- ・栈木からプラ擬木に変更
- ・トリカルネットと亀甲金網の交換
- ・ケージ床面にCON土間を打設 等

2025年 父島施設 春繁殖の結果

	繁殖用連結ケージ	金かご連結ケージ
取組 状況	飼育環境の改良 ・ケージ間の攪乱解消(1室1ペア) →従来は隣接した2つのケージに各1ペアを飼育していたが、攪乱解消のため、2つのケージを1つに連結して1ペアで使用	飼育環境の拡充 ・金かご(5基)を連結させたケージを作成 →通用口の開閉により、適宜♂♀の隔離と個別飼育が可能 →高さを確保し、視線を避ける仕様に設計
	人の影響抑制(掃除の廃止) ・毎日の掃除を廃止 →珪砂敷き+換気強化で対応	餌の変更 →2024年7月以降、粒餌+すり餌からペレット餌に変更
結果	2月から計2ペアで取組み、いずれも繁殖行動(巣に座り込む、巣材運び等)を確認したが、産卵に至らず	5月から計1ペアで取組み、産卵(3卵)、孵化(3羽)、巣立ち(3羽)を確認

2025年 父島施設 春繁殖の結果 繁殖用連結ケージ

春繁殖取組状況のまとめ

日時	繁殖経過
2月20日	ペア飼育開始 (#14♂・#15♀)
3月13日	巣に座り込む行動 (#14♂・#15♀) を確認
5月2日	#15♀を竹かごに移動
5月3日	#14♂を竹かごに移動
5月4日	ペア飼育開始 (#11♂・#7♀)
5月11日	巣材運び (#11♂) ・巣に座り込む行動 (#11♂・#7♀) を確認
5月13日	作られた巣を確認
5月18日	交尾要求 (#11♂) 、交尾拒否 (#7♀) を確認
5月19日	#7♀ 左脚の異常 (腫れ・変色) を確認
6月9日	竹かごに移動 (#11♂・#7♀)

1ペア目

繁殖兆候が低調
になったため、
入れ替えを実施

2ペア目



座り込む行動 (3月13日)



左脚の異常 (5月19日)

2025年 父島施設 春繁殖の結果 金かご連結ケージ

結果

春繁殖取組状況のまとめ

日時	繁殖経過
5月15日	#15 ♀を金かご連結ケージに移動
5月16日	#14 ♂を金かご連結ケージに移動
5月26日	交尾 を確認
5月30日	産卵 (1卵) を確認
5月31日	産卵 (1卵/計2卵) を確認
6月1日	産卵 (1卵/計3卵) を確認
6月4日	#14 ♂を竹かごに移動※
6月13日	孵化 (1羽) を確認
6月14日	孵化 (1羽/計2羽) を確認
6月15日	孵化 (1羽/計3羽) を確認
7月1日	巣立ち (2羽) を確認
7月3日	巣立ち (1羽/計3羽) を確認
7月22日	自力採餌 (2羽) を確認
7月23日	自力採餌 (3羽) を確認



交尾 (写真左) と卵 (写真上) の様子



給餌の様子 (6月20日)

※ ♂の発情が強く残り、抱卵中の♀との喧嘩が確認されたため

2025年 上野動物園 春繁殖の結果

背景と目的

- ・2022年より、オガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術確立を視野に入れ、カワラヒワの飼育繁殖を開始
- ・2023年、2024年にカワラヒワでの飼育繁殖に成功
- ・2025年3月18日、オガサワラカワラヒワ父島域外保全個体群のうち、♂♀各1羽、計2羽を搬入
→本種を用いた飼育繁殖の技術開発を目的として実施



2022年 人工孵化したヒナ



2023年 巣立ったヒナ

カワラヒワの飼育繁殖の状況

2025年 上野動物園 春繁殖の結果

取組状況

- ・搬入個体 #12♂、#16♀ (いずれも2023年10月7日平島にて若鳥で捕獲)
- ・搬入日 2025年3月17日～18日
- ・搬入方法 父島→竹芝栈橋:おがさわら丸 竹芝栈橋→当園:公用車
- ・輸送後 当園屋内飼育繁殖施設にて竹かご飼育→屋内施設に放鳥
※4月13日まで飼育環境や温度などへの馴致を実施
- ・前室を設け、他の鳥類からは隔離されたエリアでの飼育繁殖を実施



#12♂



#16♀

搬入個体の様子

2025年 上野動物園 春繁殖の結果

1クラッチ目・2クラッチ目

- ・3月18日～4月13日:屋内施設竹かご内で飼育
- ・4月14日～6月5日:屋内施設に放して飼育

2回の繁殖行動を確認 → 2回とも無精卵



3クラッチ目

- ・6月6日:2部屋を連結して飼育開始

繁殖行動を確認 → 孵化・巣立ち(2羽)



屋内施設の様子

2025年 上野動物園 春繁殖の経過報告

春繁殖取組状況のまとめ

日時	繁殖経過
4月20日	#16 ♀ が巣に伏せる時間長くなる
4月22日	#16 ♀ が終日巣に伏せる 抱卵開始 と推定
5月12日	抱卵21日目 無精卵回収 (計3卵)
5月13日	別の巣で営巣行動確認
5月19日	#16 ♀ が巣に伏せ始める
5月22日	抱卵開始 と推定
6月6日	抱卵16日目 無精卵 を回収 (計4卵) → 2部屋を連結
6月9日	#16 ♀ が巣に伏せる
6月10日	#16 ♀ が窓側の巣皿に巣材を運ぶ
6月18日	#16 ♀ が終日抱卵 抱卵開始 と推定
6月19日	計4卵 を確認
6月30日	抱卵13日目 孵化 と推定
7月7日	孵化7日齢 ビデオで確認 雌雄同時に給餌確認
7月10日	孵化10日齢 ビデオで確認 雌雄同時にヒナへ給餌
7月14日	孵化14日齢 ヒナ2羽飛び出す (巣立ち)
7月15日	孵化15日齢 2羽ヒナの 体重増加 親から給餌確認
7月17日	孵化17日齢 親から 給餌 確認 体重測定中断

1クラッチ目
孵化せず

2クラッチ目
孵化せず

3クラッチ目
2羽孵化
2羽巣立ち

2025年 上野動物園 春繁殖の結果

3クラッチ目 孵化～巣立ちを確認



6月15~18日 4卵を産卵後抱卵



6月30日 2羽の孵化を確認



7月14日 14日齢のヒナ（巣立ち）



7月7日 7日齢のヒナと親鳥ペア（給餌）

2025年 春繁殖のまとめ

	父島施設 (金かご連結ケージ)	上野動物園
得られた知見	<ul style="list-style-type: none"> ・室内で繁殖が可能 →自然環境下の日照時間を照明プログラムで再現 ・巣皿と巣材(モクマオウ、シュロ等)の設置により、生息域内に類似した造巣を支援 ・ペレット餌で飼育繁殖が可能 ・珪砂の敷設による人の影響緩和が有効 →ケージ床面に珪砂を敷設し、繁殖時に毎日の掃除を実施せず 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・産卵:1卵/日 ・抱卵期間:産卵日から15日間 →全卵産卵後本格的な抱卵を確認 ・孵化:1卵/日 ・育雛期間:孵化日から18~19日間 ・育雛:♀のみによる孵化~巣立ち ※本事例の場合は♂の隔離を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラッチによる受精卵の有無は検証が必要 →飼育環境、健康状態などに左右される可能性あり ・育雛:ペアが共同で実施
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖事例の再現と積み上げにより、繁殖技術の確立を目指す 	

2025年 落鳥(父島施設 1個体)

#1 ♀ (2021年9月23日 母島にて若鳥で捕獲) 落鳥確認日:2025年5月4日
卵塞症の疑い・腹膜炎

- ・2025年2月18日より、屋内施設において繁殖待機のため、竹かごで飼育
- ・死亡前最後の確認:5月3日18時30分頃
- ・死亡確認直後の体重:21.34g
(通常時:18~19g程度で管理しているが、5月1日以降は20g以上を確認)
- ・死亡確認時、特徴的な汚れや脱落羽毛等、目立った確認事項なし

剖検結果

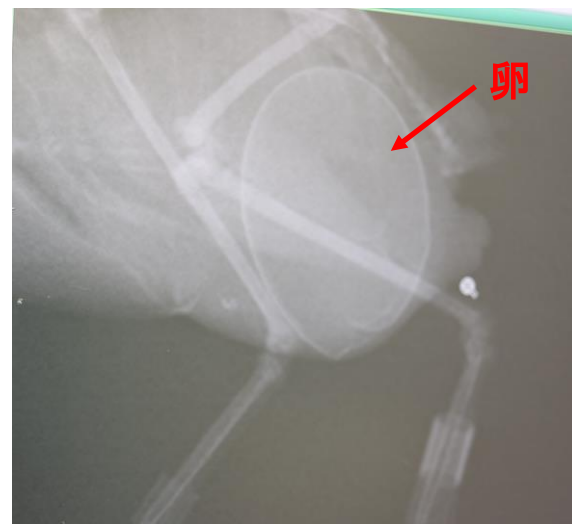
- ・卵管内に卵殻が形成され、1つの割れた卵を確認 → 卵塞症の疑い



落鳥時の様子



剖検時確認した卵の様子



レントゲン写真

2025年 脚の異常(父島施設1個体、上野動物園1個体)

#7 ♀ (2022年9月8日 向島にて若鳥で捕獲)

左脚のうっ血、浮腫、変色

- ・足環装着状況(装着期間:約2年9か月)
→左脚プラスチック製標識足環2つ 右脚 // 1つ
- ・6月10日、足環の取り外しを実施

手術結果(父島施設)

- ・左脚に中等度の浮腫、うっ血
- ・左脚フシヨ表面に落屑の堆積
- ・予防的に右脚の足環も除去
- ・術後、うっ血の改善、皮膚のたるみを確認
→行動に異常見られず

#12 ♂ (2023年10月7日 平島にて若鳥で捕獲)

左脚の腫張

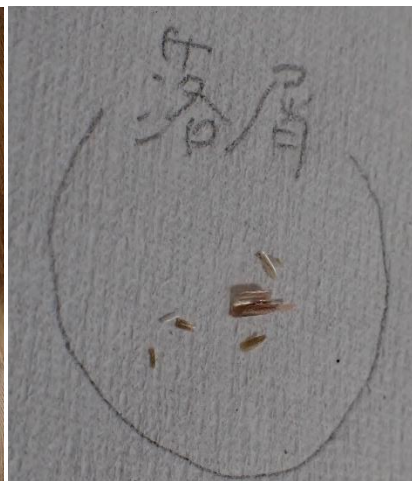
- ・足環装着状況(装着期間:約1年8か月)
→左脚プラスチック製標識足環2つ 右脚 // 1つ
- ・6月12日、足環の取り外しを実施

手術結果(上野動物園)

- ・左脚フシヨ表面に落屑の堆積
- ・予防的に右脚の足環も除去
- ・術後、行動に異常見られず



手術時の左脚の様子 (#7 ♀)



確認された落屑



手術時の左脚の様子 (#12 ♂)



足環と落屑

2025年 脚の異常を受けて

今後の対応

- ・足環の装着期間に関わらず、2025年春繁殖期に、計3例が発生
→ #13♂(小笠原自然文化研究所で飼育、装着期間:約1年7か月)でも
同事例を確認
※ただし、域内では足環装着による不具合の報告なし
- ・足環を装着している他個体についても、予防的な観点により、取り外しを検討
- ・飼育個体の管理に使用する足環の仕様(材質、規格等)、装着の数・時期について検討中
- ・麻酔下での処置が問題ないことが確認されたため、サンプリング(採血等)について検討中